

## 2026年度 事業計画 及び 収支予算

### I 2026年度 公益目的事業計画

九州交響楽団は、経営再建を目指し、昨年10月に策定した「九響改革プラン」において「早期黒字化と収入源多様化」「事務局の生産性向上」「企画力と情報発信」「地域・教育機関との連携強化」の4つの基本方針を掲げ、収支改善などに取り組んでいる。

特に、根幹となる演奏活動については、九響の特長や優位性を活かし、福岡・北九州を拠点としながらも九州一円からアジアへと活動領域を拡大していくことで九州のクラシック音楽ファンのすそ野を広げるとともに、将来世代への音楽文化の継承に貢献することを目指す。

2026年度のプログラムについては、「首席指揮者太田弦、ミュージック・アドバイザー篠崎史紀」体制3年目のシーズン。それぞれの関係・コミュニケーションは深化しており、今だからこそ実現できるオーケストラ音楽の醍醐味をお届けする。

太田弦は定期演奏会9回のうち3回を指揮。開幕を飾る第438回のブリテン「ヴァイオリン協奏曲」を皮切りに9月の第442回で武満徹の「『系図』若い人たちのための音楽詩」、1月の第445回で伊福部昭の「ピアノと管弦楽のための協奏風交響曲」を取り上げるなど、これまで九響が演奏してこなかった作品の数々をラインナップしている。没後50年のブリテン、没後30年の武満、没後130年のブルックナー、没後20年の伊福部とメモリアルイヤーを迎える作曲家たちの音楽をとおして多彩な響きと時代の精神を描く。なお、定期演奏会にはこれまでも共演を重ねてきたキンポー・イシイ、ユベール・スダーン、小泉和裕に加え、新世代の3名の指揮者も登場する。

また、定期演奏会に先立ち曲目解説や聴きどころを紹介する「目からウロコ!!の九響おんがくアカデミー」は10周年を迎えることから、4月の第438回では、太田弦も交えて特別トークイベントも開催する。

F F Gホールで開催する天神でクラシック「音楽発見！ラボ」では、第12回に篠崎史紀が登場する。第13回に韓国の新鋭ソン・ミン・ギユウ、第14回にはフランスの楽団の音楽監督を務める阿部加奈子を迎えるなど、定期演奏会も含め、年間をとおして今まで以上に九響の多彩な魅力を感じていただける出演者、演目を揃えている。

そして、新たなチャレンジとして、平日午後に新シリーズ「九響アフタヌーンセッション」を開始する。実力派ソリストとの共演により、オーケストラの名曲を楽しんでいただく企画である。

さらに、北九州での定期演奏会、熊本特別演奏会に加え、大分でも特別演奏会を開催。プレイベントも行うことで、九州各地において九響を身近に感じてもらい、本物の音を聴いていただく機会を提供する。

その他、「九響マタニティコンサート（福岡）」「九響0歳からのオーケストラ（熊本）」

「オーケストラ for キッズ（福岡・北九州）」「夏休みリラックスコンサート」など親子で楽しめる公演や年齢、障がいの有無に関わらず、多くの方がクラシック音楽に触れる機会も広く展開し、九響のキャッチフレーズである「あなたの街のオーケストラ」を推進していく。

お客さまから好評を得ている「終演後の楽団員によるお見送り」「九響交流カフェ」は福岡及び北九州にて継続実施、楽団員をより身近に感じられる機会を創出する。

チケット制度については、料金を据え置き、安価で多くのお客さまにご来場いただき、完売の公演を増やしていく。併せて、コンサート会員の拡大により、安定的な入場料収入の確保を図りたい。

最後に、当楽団の演奏活動等の情報発信についても、定例会見やSNS、マスメディアの活用をとおして積極的に展開するとともに、演奏者や演目、趣旨に応じ、ターゲットへアプローチする効果的な広報活動を有識者の声も聴きながら実施し、一人でも多くの皆さまに届けていく。

## (1) 主催公演

主催公演は、九響が自ら企画して市民に幅広く告知・販売して公演を行うことにより、クラシック音楽の魅力を市民にお届けし、音楽文化の発展に寄与する公演である。

2026年度については、福岡市で24公演、北九州市4公演を実施する。

福岡市では、以下の24公演を実施する。

- ① <定期演奏会> (9公演)
- ② <天神でクラシック> (3公演)
- ③ <第九(福岡)> (1公演)
- ④ <ニューイヤーコンサート2027(福岡)> (1公演)
- ⑤ <九響アフタヌーンセッション> (2公演)
- ⑥ <九響マタニティコンサート(福岡)> (2公演)
- ⑦ <サンクス・コンサート> (2公演)
- ⑧ <夏休みリラックスコンサート> (1公演)
- ⑨ <舞台芸術感動体験事業コンサート(アクロスー万人コンサート)> (2公演)
- ⑩ <オーケストラ for キッズ in 福岡> (1公演)

### ① <定期演奏会> (9公演)

地域における芸術文化の振興発展を目的とし、オーケストラを通してクラシック音楽文化の普及促進を図る演奏会。初演作品や実演に触れる機会の少ない音楽作品などを積極的に取り込み、九州のクラシック界をリードするオーケストラとして芸術性を重視したプログラムをお届けす

る。近年、活躍が増えてきた女性の指揮者も起用する。（当団定期演奏会としては2014年度以来）

2016年度から開催してきた定期演奏会のプログラム解説講座「目からウロコ!?!のクラシック講座」をリニューアルし2023年度から「目からウロコ!?!の九響おんがくアカデミー」と改題した。仕事帰りのお客さまにも配慮し開催時間を夕方18時30分に変更するとともに、楽団員による生の演奏を盛り込むなど、より魅力ある講座とし定期演奏会の集客増を目指している。

2024年4月から、開場時間中の「プレトーク」を開催し多くのお客さまに好評を得ている。

「2026年度の特徴として」

- ・九響ビジョンで掲げる「日本のトップオーケストラを目指す」ため、初採用の曲目を含む多様なレパートリーを取り入れ、全ての回で来場者がオーケストラ音楽の個性や普遍性を体験できる公演とする。また楽団の特長である重厚で情熱的な演奏に加えて、緻密さ・色彩・柔軟性を獲得できるような曲目、共演者を選択する。
- ・首席指揮者、太田弦とは3年目のシーズンとなり信頼関係が深まり評価も高まってきた。聴衆と楽団がともに“耳を開く”“音楽の世界を広げる”ことをテーマに、我々の看板にしたい英国音楽のブリテン&ウォルトン、没後30年の記念年である武満徹作品や福岡県が取り組むアーティストインレジデンス事業にて創作された地元、福岡出身の宮下亮明作品等の邦人作品を含む公演など、首席指揮者とのレパートリーの拡大を行う。
- ・共演を重ねる小泉和裕、キンボー・イシイ、スダーンとは交響楽団の真価を問う名作を披露。経験豊富なベテラン指揮者が当団の音を磨き、そこにそれぞれの指揮者の個性を乗せる3公演とする。
- ・新世代の3名の指揮者が当団に初登場する。ドイツの歌劇場で活躍する小林資典とはモーツァルト&プーランクの関連の強い演目でヨーロッパ最前線の演奏を紹介。シモーネ・メネセスとは、当団定期演奏会としては2014年以来の女性指揮者の起用で、ヴィラ＝ロボスを核としたグローバルな演目である。マイニンゲン州立劇場で監督を務めるキリアン・ファレルを当団独自に招聘し、若いリーダーとして当団に新しい風を吹きこむ。なお、この公演では楽団員交流を目的として群馬交響楽団楽団員と共演し、地方楽団が相互に刺激をする機会とする。

## ② <天神でクラシック>（3公演）

幅広い世代へのクラシック音楽の普及を目的とし、シリーズ各回それぞれプログラムにテーマを設け、出演者による曲目解説やエピソードトークを交えることで、クラシック音楽に馴染みのなかったお客さまにも生の演奏の魅力を実感していただくコンサート。FFGホールの特徴を考慮して小編成のオーケストラ作品の魅力を紹介する。

「2026 年度の特徴として」

- ・現代音楽や九州ではあまり演奏されない曲目を含む構成だが、出演者によるトークや進行役のお話しを挟み、“音楽 発見！ラボ”の副題が示すように関心や好奇心を持って様々な作品を聴く機会を提供する。
- ・「#12」は当団ミュージック・アドバイザーの篠崎史紀が出演。交響楽団がバロック音楽をやることは近年少ないが、敢えて今の時代のやり方でバロックを演奏し、時代によって変容する演奏法の再生と伝承をテーマに、2026 年の九響のバッハを提案する。
- ・九響ビジョンに掲げる“アジアからの演奏家の招聘”の一環として、韓国の才能ある若手、ソン・ミン・ギウを「#13」にて当団独自に招聘する。調性の統一感のあるクラシック音楽の間にベルリンでイサン・ユンに学んだ細川俊夫作品を置くことで、ドイツ・オーストリア、韓国、日本がつながる演目とする。
- ・「#14」はフランスの楽団の音楽監督も務める、指揮者・作曲家の阿部加奈子を迎えてフランスの地方をテーマに構成した。おそらく多くの聴衆が初めて生で聴くであろうオーヴェルニュの歌には、フランス在住の二枝由衣（長崎出身）を迎えて、フランスの空気をそのまま届ける舞台とする。エル＝トゥルクの作品は、人間のアイデンティティと境界線＝差異をテーマにした作品で、現代を生きる作曲家のリアリティのある作品として取り上げる。

### ③ <第九（福岡）>（1公演）

首席指揮者である太田弦が毎年恒例の第九公演では初の指揮を執る。国内トップクラスの歌手陣とともに名作を披露する。九響合唱団や賛助出演する地元の合唱団との共演の機会でもある。また没後 30 年である武満徹の作品を委嘱編曲して独唱とオーケストラで演奏する貴重な機会である。

### ④ <ニューイヤーコンサート 2027（福岡）>（1公演）

ハチャトリアン国際コンクール指揮部門で優勝するなど活躍がつつく若手指揮者の出口大地と実力派ヴァイオリニスト、石上真由子との共演によるニューイヤーコンサート。シュトラウスファミリーの作品を中心にフランスやハンガリーの作品を織り込み新年に相応しい華やかな公演とする。

### ⑤ <九響アフタヌーンセッション>（2公演）

当団としては初の試みである平日昼間の公演シリーズを始める。若手～中堅の人気ソリストとの共演と名管弦楽曲の組み合わせで構成し、夜間や休日には外出しにくい層へ訴求することで、新たな九響ファンの獲得を目指す。FBS 福岡放送との共同主催公演としてテレビを通じた広報、宣伝を行う。

⑥ <九響マタニティコンサート> (2公演)

普段のオーケストラ演奏会には足を運びにくい小さな子ども連れや妊婦さんに来場いただけるように、会場設営や接客、舞台進行を工夫したコンサート。近年、女性の指揮者の活躍にも注目が集まる中、今年の公演では若手女性指揮者の喜古恵理香さんが昨年につき指揮をする。

⑦ <サンクス・コンサート> (2公演)

日頃の愛顧やご支援への感謝を表す機会としてコンサート会員、後援会会員を対象に限定公演を開催する。NHK 交響楽団でも活躍した茂木大輔さんの指揮、お話で楽団員の紹介や楽曲の解説など、今後、より当団を楽しんでいただける構成とする。

⑧ <夏休みリラックスコンサート> (1公演)

年齢や障がいを超え、誰もが音楽を楽しむことができるオーケストラ・コンサート完全な静寂でなくても鑑賞を楽しめる環境で演奏中の入退場も可能とする。福岡県障がい者文化芸術活動支援センター (FACT) の協力、助言を得て普段は劇場に足を運びにくいという方も安心してご来場いただけるよう様々なバリアフリーに取り組む。

⑨ <舞台芸術感動体験事業コンサート (アクロス万人コンサート)> (2公演)

本公演は、アクロス福岡と福岡県教育委員会、福岡県教育文化奨学団体からなる実行委員会と九州交響楽団がコラボし青少年を対象に企画しているコンサート。2026 年度も上記団体と協力し共同主催事業として午前・午後の1日2公演実施する。

⑩ <オーケストラ for キッズ in 福岡> (1公演)

例年九響が春休みに子どもたちへ贈るコンサート。聴きやすく楽しめる、そして情操教育の一端としてオーケストラ音楽を身近に感じてもらえる企画とする。

北九州市では、以下の4公演を実施する。

北九州市での公演は、福岡県北東部のクラシック音楽普及促進を目的として、4公演を実施する。

① <北九州定期演奏会> (1公演)

② <第九 (北九州)> (1公演)

③ <ニューイヤークンサート 2027 (北九州)> (1公演)

④ <オーケストラ for キッズ in 北九州> (1公演)

① <北九州定期演奏会>（1公演）

首席指揮者の太田弦が北九州定期に初登場。北九州国際音楽祭でも評価の高かった田所光之マルセルとともに古典派から20世紀にいたるクラシック音楽の系譜を意識したプログラムを提供する。公演終了後には、楽団員と来場者がお茶を飲みながら交流する「九響交流カフェ」を開催し北九州地区のファン拡大に努める。

② <第九（北九州）>（1公演）

福岡公演と同じく首席指揮者、太田弦が指揮を執り、国内トップクラスの歌手陣、地元合唱団の北九州市民フロイデコールとの共演で年末を名作で彩る。

③ <ニューイヤーコンサート2027（北九州）>（1公演）

福岡公演と同じく指揮出口大地、ヴァイオリン石上真由子とともに親しみやすいウィーンのワルツ、ポルカに加えフランスやハンガリーの音楽で新年を華やかに迎える。

④ <オーケストラ for キッズ in 北九州>（1公演）

北九州市と協議のうえ、北九州地区でも子どもやファミリー層に当団の音楽を楽しんでいただくため、オーケストラ for キッズを初開催する。北九州市芸術文化財団との共同主催とし、広報等協力をして開催をする。

福岡県外では、以下の3公演を実施する。

名実ともに九州の楽団として活動を充実させるべく以下の3公演を実施する。

① <九響0歳からのオーケストラ（熊本）>（1公演）

② <熊本特別演奏会>（1公演）

③ <大分特別演奏会>（1公演）

① <九響0歳からのオーケストラ（熊本）>（1公演）

2025年度に引き続き、熊本県立劇場との共同主催で開催する。乳幼児やその家族が来場しやすいよう、会場設営や接客、舞台進行を工夫する。

② <熊本特別演奏会>（1公演）

定期演奏会と同水準の芸術性の高い公演を熊本県立劇場との共同主催で開催する。首席指揮者の太田弦とともにオーケストラの真価を問うプログラムを設定。プレイベントなど、熊本での聴衆拡大、知名度向上事業も並行して行う。

### ③ <大分特別演奏会>（1公演）

iichiko 総合文化センターを会場に同センターを運営する大分県芸術文化スポーツ振興財団との共同主催で福岡での定期演奏会と同内容の公演を開催する。ジュニアオーケストラメンバーや公募での観客を対象にしたプレ事業も実施する。

#### （2）依頼公演

<主催公演>以外で、鑑賞団体、企業、学校などから公演の依頼を受け出演するコンサートであり、当楽団にとって重要な収入源である。2026年度の依頼公演については、「中学生の未来に贈るコンサート」が2024年度から新たな契約（3年間）の最終年度として48公演を実施するほか、全依頼公演は124公演を予定している。

2025年度も文化庁「舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）」に採択されたことにより、3公演以上を実施する。（開催校との調整中）その他、公演依頼先からお声掛け頂いた場合にはお客さまのニーズにお応えしながらスケジュールが許す限り積極的に受託していく。

一方、オーケストラ業務に支障のない範囲で《室内楽》演奏も実施する。この《室内楽》も<依頼公演>に含まれる。

---

前述、<主催公演>、<依頼公演>は、公益法人の公益目的事業区分において[1]定期演奏会、[2]巡回演奏会、[3]特別演奏会、[4]移動音楽教室、[5]依頼演奏会の5種類に分類している。公益法人における公益目的事業区分は以下のとおり。

#### [1] 定期演奏会（10公演：福岡市9公演、北九州市1公演）

##### 福岡市での

<定期演奏会>（9公演）

##### 北九州市での

<定期演奏会>（1公演）

#### [2] 巡回演奏会（9公演：福岡市7公演、北九州市2公演）

##### 福岡市での

<天神でクラシック>（3公演）

<第九（福岡）>（1公演）

<ニューイヤークンサート2026（福岡）>（1公演）

<九響アフタヌーンセッション>（2公演）

北九州市での

＜第九（北九州）＞（1公演）

＜ニューイヤーコンサート2026（北九州）＞（1公演）

**[3] 特別演奏会**（12公演）

福岡市での

＜九響マタニティコンサート（福岡）＞（2公演）

＜サンクス・コンサート＞（2公演）

＜夏休みリラックスコンサート＞（1公演）

＜舞台芸術感動体験事業コンサート（アクロス一万人コンサート）＞（2公演）

＜オーケストラ for キッズ in 福岡＞（1公演）

北九州市での

＜オーケストラ for キッズ in 北九州＞（1公演）

熊本市での

＜九響0歳からのオーケストラ（熊本）＞（1公演）

＜熊本特別演奏会＞（1公演）

大分市での

＜大分特別演奏会＞（1公演）

**[4] 移動音楽教室**（1公演）

情操教育を目的とした公演であり、依頼を受け実施する＜依頼公演＞の一つであるが、《移動音楽教室》として分類している。

**[5] 依頼演奏会**（124公演：オーケストラ公演：94公演、室内楽演奏：30公演）

<参考> 2026 年度公演数一覧

	2026 年度計画	2025 年度計画	2025 年度実績 (見込)	計画比増減
定期演奏会	10回	11回	11回	1回減 ※1
巡回演奏会	9回	7回	7回	2回増 ※2
特別演奏会	12回	12回	12回	増減なし
移動音楽教室	1回	1回	0回	増減なし
依頼演奏会	94回	93回	96回	1回増 ※3
合計	127回	124回	126回	3回増

※ 1 北九州定期演奏会 2回→1回

※ 2 巡回演奏会「アフタヌーン・セッション」2回

※ 3 依頼演奏会3回増、町村会1回増、文化庁3回減

<参考> 2025 年度公演

	計 画	実 績 (見込)	増減内訳
定期演奏会	11回	11回	増減なし
巡回演奏会	7回	7回	増減なし
特別演奏会	12回	12回	増減なし
移動音楽教室	1回	0回	実施なし (1回減)
依頼演奏会	93回	96回	・依頼演奏会：2回増 ・中学生公演：増減なし ・文化庁公演：1回増
合計	124回	126回	2回増